

商工会地域では、今期は製造業が改善、来期予測は全体的には回復傾向がみられる!!

—2019年1月～3月期 中小企業景況調査報告書概要—

日銀が2019年4月1日に発表した3月の企業短期経済観測調査(短観)によると、企業の景況感を示す業況判断指数(D・I)は、大企業・製造業がプラス12で、前回2018年12月調査のプラス19から7ポイント悪化した。悪化は2四半期ぶりであり、7ポイントの悪化は2012年12月(9ポイント悪化)以来、6年3ヶ月ぶりの大幅な悪化となる。米中の貿易摩擦や海外経済の減速が景況感の悪化につながった。大企業・非製造業の業況判断指数はプラス21と前回調査のプラス24より3ポイント下回った。業況感の悪化は2四半期ぶりである。人手不足による人件費の高騰などコスト上昇圧力が逆風となった。中小企業の業況判断指数は、製造業が前回2018年12月調査のプラス14から8ポイント悪化し、プラス6となった。非製造業は前回調査より1ポイント改善してプラス12となっており、製造業と非製造業で大きく明暗が分かれている。

3か月後の先行きの見通し(2019年6月予測)は、大企業・製造業がプラス8と今期より4ポイント悪化する見通しである。海外経済の不透明感などを背景に、先行きも慎重姿勢が強くなっている。大企業・非製造業もプラス21と1ポイント悪化するともみている。依然として、人手不足や人件費の上昇などが重荷になっている。中小企業においては、製造業が今期より8ポイント悪化しマイナス2となっている。6月調査がマイナスになると2016年9月(マイナス3)以来、2年9ヶ月ぶりとなる。非製造業は7ポイント悪化しプラス5と予測している。中小企業では大企業以上に先行きに対する不安を感じており、慎重な見方が多くなっている。

内閣府が3月20日に発表した3月の月例経済報告においては、国内景気は「景気は、緩やかに回復している」から「このところ輸出や生産の一部に弱さもみられるが、緩やかに回復している」に変更された。景気回復が続いている意識を維持しつつ、足元の輸出や生産の落ち込みを反映して判断を下方修正した。総括判断の下方修正は2016年3月以来、3年ぶりとなる。

商工会地域の景況調査においては、今期(2019年1月～3月)の業況に関するD・I値は、製造業が前期から2.3ポイント改善のマイナス17.1、建設業が4.2ポイント悪化のマイナス20.8、小売業が10.1ポイント悪化しマイナス35.1、サービス業が5.8ポイント悪化しマイナス12.0となっている。前期は、製造業だけが悪化していたが、今期は、建設業、小売業、サービス業が悪化しており、対照的な結果となっている。

来期(2019年4月～6月期)の業況予測については、製造業が7.4ポイント改善しマイナス9.7、建設業は2.6ポイント改善しマイナス18.2、小売業は5.4ポイント改善しマイナス29.7と予測しているが、サービス業だけはわずか0.5ポイントであるが悪化しマイナス12.5と予測している。

商工会地域の景況感、今期は建設業、小売業、サービス業が悪化しているが、来期予測は全体的には回復傾向になると見込んでいる。ただし、海外経済の不透明感や人手不足、人件費上昇など事業活動に影響がでてくる課題が山積しており、予断を許さない状況が続くと思われる。

(中小企業診断士 橋本大輔)

業界天気動向図

項目	売上				採算(経常利益)				資金繰り			
	2018			2019	2018			2019	2018			2019
年月	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
業種	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少	大幅に減少
	好転	やや好転		やや悪化	悪化	非常に悪化
D I 値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0	△35.1～
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

今期直面している経営上の問題点

(数値の左は前期構成比、右は当期構成比を記す)

業種	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	生産設備の不足・老朽化		製品(加工)単価の低下、上昇難		原材料価格の上昇、需要の停滞		大企業の進出による競争の激化、人件費の増加、従業員の確保難等		—	
前期	30.6	20.0	8.3	17.1	—		8.6		—	
今期	—		—		—		—		5.7	
建設業	1位		2位		3位		4位		5位	
1位にあげる問題点	官公需要の停滞		従業員の確保難		材料価格の上昇		民間需要の停滞		材料の入手難、人件費の増加、取引条件の悪化等	
前期	40.0	30.0	10.0	25.0	5.0	15.0	10.0	10.0	—	
今期	—		—		—		—		5.0	
小売業	1位		2位		3位		4位			
1位にあげる問題点	大型店・中型店の進出による競争の激化		仕入単価の上昇		購買力の他地域への流出		同業者の進出、店舗の狭隘・老朽化、販売単価の低下、上昇難、需要の停滞			
前期	23.7	24.3	7.9	18.9	21.1	16.2	—		8.1	
今期	—		—		—		—			
サービス業	1位		2位		3位		4位			
1位にあげる問題点	利用者ニーズの変化		店舗施設の狭隘・老朽化		需要の停滞		新規参入業者の増加、従業員の確保難			
前期	10.9	23.8	26.1	21.4	13.0	19.0	—		7.1	
今期	—		—		—		—			